

特集

訪問看護の 胃ろうケア

迷いながらも寄り添って

前号で大賞を発表した懸賞論文『胃ろう』をつけた『あの人』のこと。

100通近くいただいた応募作品のなかには、惜しくも受賞は逃したものの、かけがえのない『あの人』との物語や、個性豊かな地道な取り組みの数々があふれていました。

これを、そのまま眠らせてしまうのは、もったいない！

そこで、今回は訪問看護師さんからのご応募を中心にご紹介します。

共通して見えてきたのは、迷いながらも、一看護師として『あの人』に寄り添い続ける姿勢です。

脳梗塞、認知症、神経難病などによる嚥下障害に対して、

胃ろうのまま口から食べられるようになった事例や

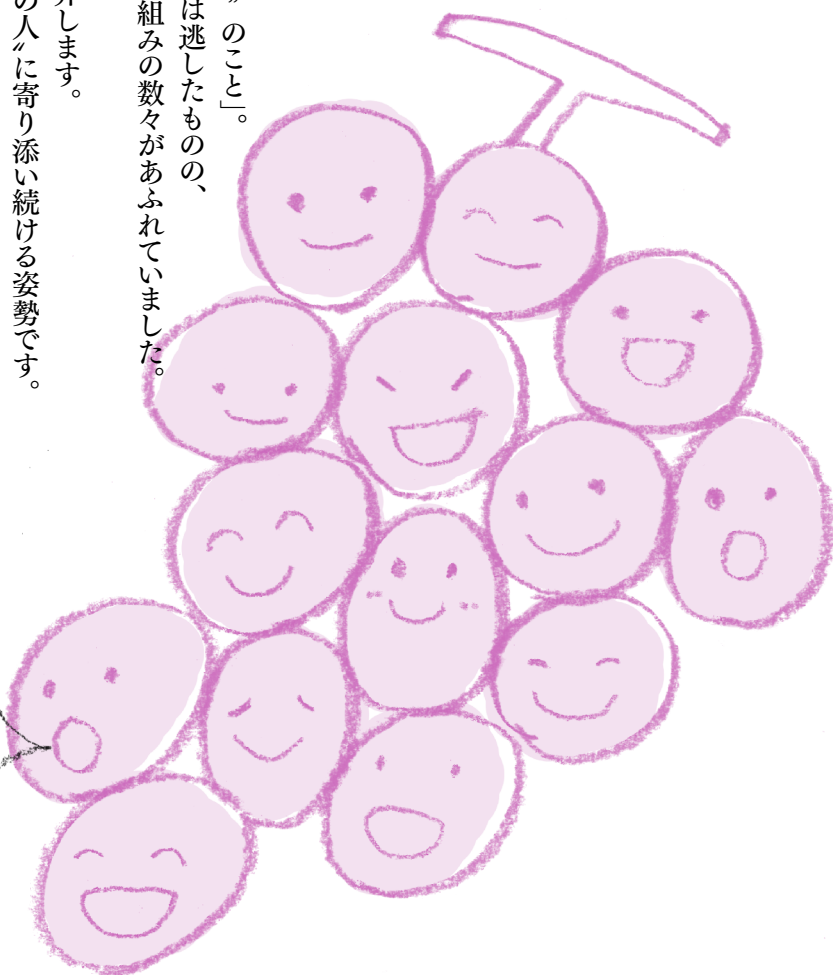
胃ろうをうまく活用してQOLの向上が図られたものなど、

千差万別の実践が語られています。

家族の支援や多施設連携のジレンマなど、在宅ならではの課題に向き合うものも。

また、併せて「あなたは胃ろうをつけますか？」という問いにお答えいただきました。

訪問看護師として、一個人として、迷いながらも確かな実践を続ける姿に学びます。



「あなた自身」はどう思う？

- ① 訪問看護歴は？
- ② あなた自身が、胃ろう造設の決断を迫られたら Yes? No?
- ③ ②の理由を教えてください。